

浅間山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

＜噴火警戒レベル2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ＞

浅間山では、地殻変動、地震活動、火山ガス放出量などに低下が認められ、火山活動は低下していると考えられます。火口から500mを超える範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断し、本日（6日）14時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

防災上の警戒事項等：

火口から500mの範囲に影響を及ぼす程度のごく小規模な噴火の可能性がありますので、地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。突発的な火山灰噴出や火山ガス等に注意してください。

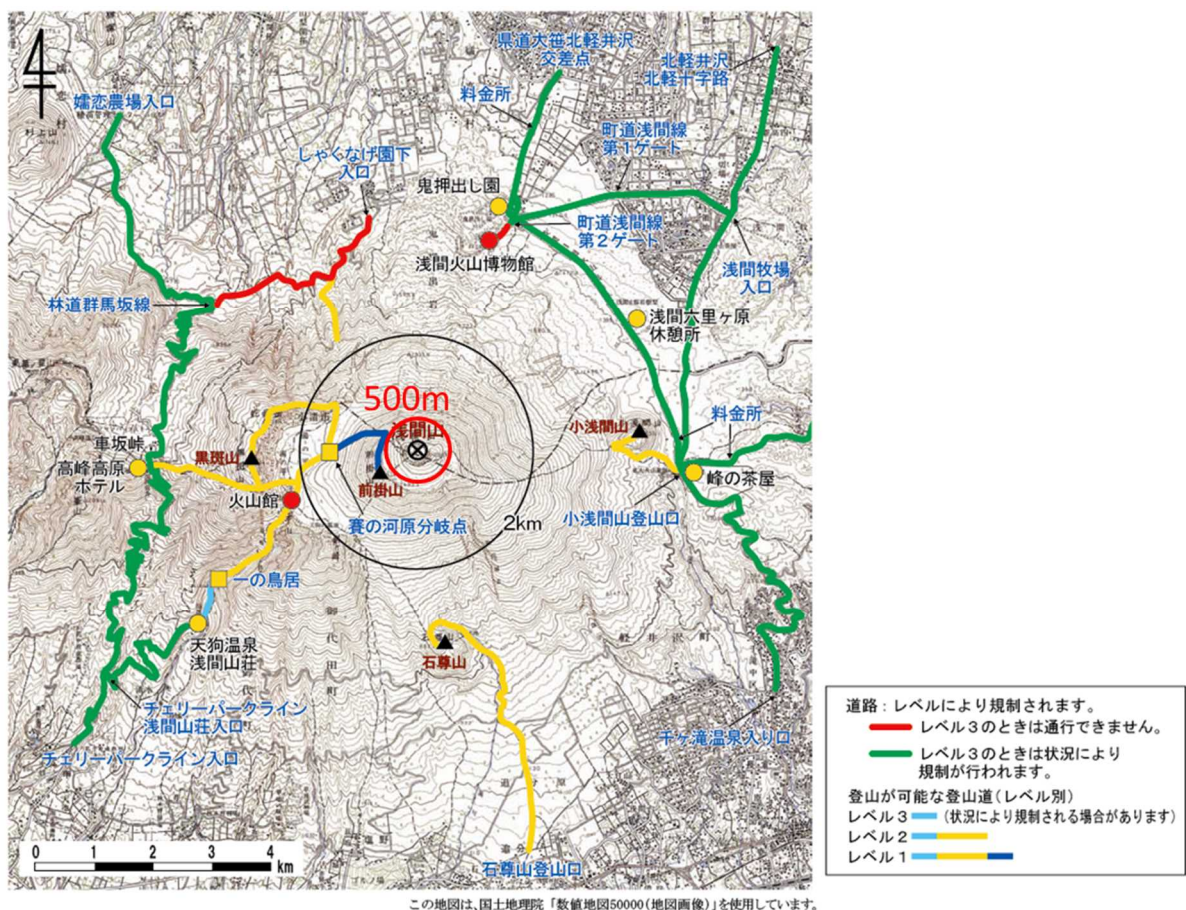


図1 浅間山 噴火警戒レベル1に対応した規制範囲（赤円内：火口から500mの範囲）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、関東地方整備局、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び長野県のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』『数値地図50000（地図画像）』を使用しています。

○活動概況と評価

浅間山では、山体浅部を震源とする火山性地震は引き続き発生しているものの、6月中旬以降減少傾向がみられます（図2④）。傾斜計による観測では、浅間山西側での膨張を示すと考えられる傾斜変動は4月下旬頃にはほぼ停滞し、その後みられた塩野山観測点でのわずかな西上がりの変動もほぼ停滞しています（図2⑤）。また、山頂火口からの噴煙量及び火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も、5月以降概ね少ない状態で経過しています（図2②③）。

以上のことから、火山活動が低下していると考えられます。

ただし、2020年5月頃から地震回数が増加し、それ以前に比べると、多めに推移しています（図2④）。再び火山活動が高まる可能性があるため、今後の火山活動に注意してください。

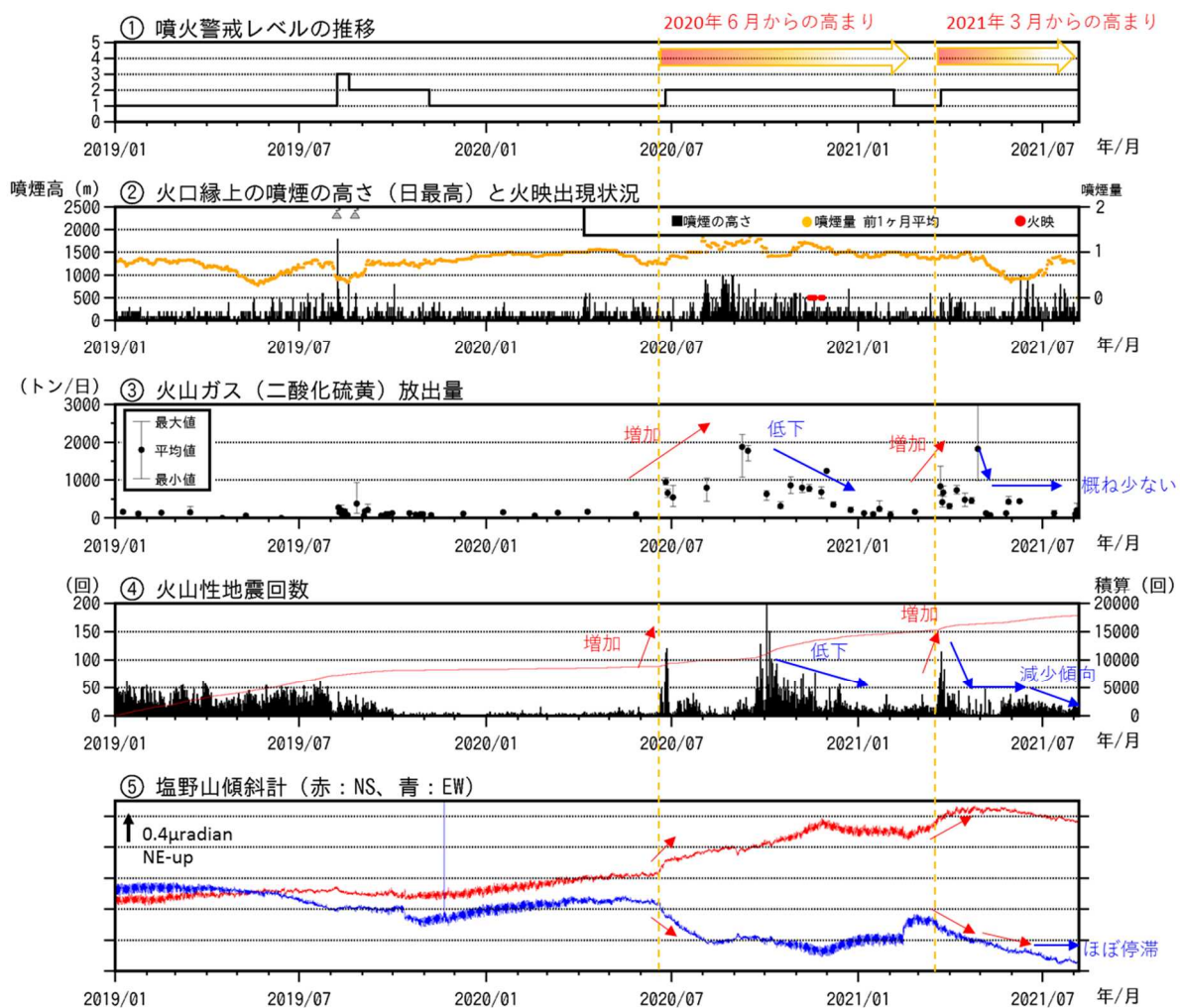
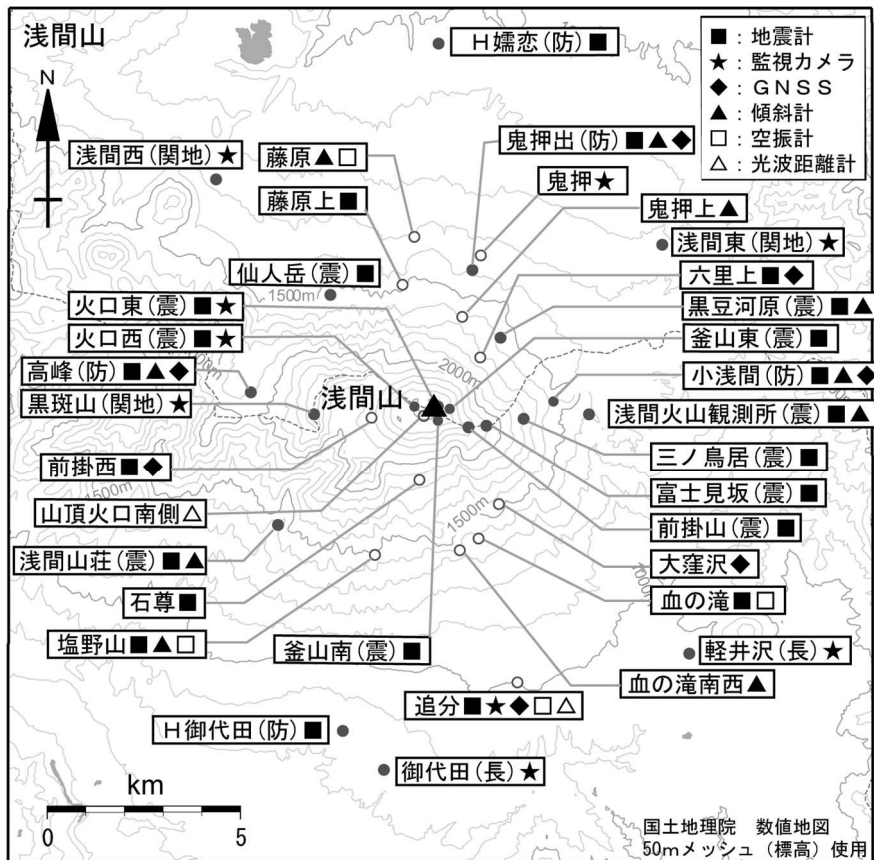


図2 浅間山 最近の活動経過図 (2019年1月1日～2021年8月3日)

- ・火山性地震は引き続き発生しているものの、6月中旬以降減少傾向がみられます。
- ・傾斜計による観測では、浅間山西側での膨張を示すと考えられる傾斜変動は4月下旬頃にはほぼ停滞しました。その後みられた塩野山観測点でのわずかな西上がりの変動もほぼ停滞しています。
- ・1日あたりの火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も、5月以降概ね少ない状態で経過しています。
- ・2020年5月頃から地震回数が増加し、それ以前に比べると、多めに推移しています。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(震)：東京大学地震研究所、
 (関地)：関東地方整備局、(長)：長野県

図3 浅間山 観測点配置図